

話者同士の立場関係と対称詞使用の関連性

一方言ロールプレイ会話を用いてー

山 本 空

1. はじめに

本稿では方言ロールプレイ会話にみられる対称詞について分析する。対称詞について、鈴木（1973）は「話しの相手に言及することばの総称」と述べている。日本語においては「あなた」「おまえ」等の二人称代名詞や、「山田さん」「太郎君」等の聞き手の名前、「部長」「先生」等の聞き手の地位、「お母さん」「おじさん」等の親族名称が例として挙げられる。「先生、おはようございます。」のように呼びかけ語として用いられるものは対称詞に含めない、という先行研究もあるが（永田2015）、本稿は鈴木（1973）に従い、聞き手を指すものはすべて対称詞とする。

方言談話に用いられる対称詞の使用量について分析している山本（2016）によると、愛知以西の西日本がより多く使用する傾向が見られ、その多くは文脈上必須でない独立語的な二人称代名詞である。独立語的な二人称代名詞とは、文中に係り先のない、フィラー的な使い方をされる二人称代名詞のこととされる。(1)¹⁾はロールプレイ会話において、先輩を怒らせてしまったAをBが慰めている場面である。Bの発話「直ってくれるよ」とは「Aが怒らせた人物が機嫌を直してくれるよ」という意味で発言されている。したがって「直ってくれるよ」は二人称代名詞「あなた」の係り先にはなりえず、「あんた」はフィラー的に用いられている。

本稿ではこのような用例を「独立用法の対称詞（二人称代名詞）」と呼ぶ。

(1) B: あの一、大丈夫だわー。また今度会ったときに一、あの一、けろっとした顔で話しようねー。

A: // そうだねー。

B: またあんた、直ってくれるよ。 (南知多女性・場面3・中立)

独立用法の二人称代名詞の先行研究には大分方言に言及した松田・日高（1996）、

松田 (2015) や近畿西部方言について言及した神部 (2003) 等がある。松田・日高 (1996) では、実際に話された大分方言話者の例を挙げている。

- (2) F: うーん アーター ナンカ オカン マーチャンガ アーター、キュワ ウケオーチョッチ アーター ベントーモッチェ ヒユトリイタトカエー (中略) ホジェー アンテー ヤッパー アン フナ デンワ カカタンジャロー。(うん あなた 何か 岡の 政ちゃんが あなた、今日は 引き受けていながら、あなた 弁当持って 日雇いに行ったとか (中略) それで あなたに やっぱり あの じゃあ 電話が かかったんだらう。) (松田・日高 1996 より抜粋。(中略) は筆者による。)

こういった用例について「間投詞²⁾としての使い方」をしており、「親しみをこめて呼びかけている」と述べている。松田 (2015) は松田・日高 (1996) の記述、用例を参考にしつつ、ロールプレイ会話資料を用いて大分方言の「アンタ」「オマエ」のフィラー的使用について、首都圏の談話と比較し、分析している。また、神部 (2003) も兵庫県播磨・但馬地方にみられる「間投のアンタ³⁾」に着目し、「相手への呼びかけの際立った働きが看取されよう」と述べている。そこに挙げられている用例は以下のようなもので、大分方言話者の例である (2) と酷似している。

- (3) ソレオ アンタ ニモツオ オーテダッセ ナー。(そのうえに、ほんとに、荷物を背負ってですのでねえ。) (神部 2003 : 318 より抜粋)

本稿で扱う談話資料でも、確かにそのような用例は多くみられる。しかし中には親しみをこめているとはいいがたい用例も存在する。

- (4) B: で、携帯、うー、今度、なんか、あん、大丈夫かなーと思ったら、今度、Suica 忘れちゃってさー。それでまた Suica を取りに行ってたからね、ここで 20 分ぐらい遅れちゃったの。ごめんねー。
A: だって、あんた、みんなもう来てるんだよー。
B: あら、どうしよう。だからね。
A: どうしようじゃなくて、さっさと来なさいよー。

(首都圏女性 1・場面 1・話し手上位)

(4) は遅刻してきた B に A が文句を言っている場面である。ここでの「あなた」は親しみをこめるといよりも話し手の怒りや不満を感じる。音声も確認したが、やさしい口調ではなく、かなり厳しい言い方をしている。この場合、相手に親しみをこめるという意図はあまり感じられない。このような場面における独立用法の対称詞を分析した先行研究は山本 (2017a) が挙げられるが、あまり多くはない。

また、(5) のように聞き手に対して遠慮するような場面で使用される独立用法の対称詞について言及されている先行研究も、管見の限り先行研究はみられなかった。

(5) A: あの、B さん、もうなんでもできるけん//な、

B: {笑}

A: そやけんあなた、B さんを誘ってきて一っって言われちよるに。

(大分女性・場面 4・話し手下位)

(4) や (5) のような用例を、先行研究で述べられているように「親しみをこめて相手に呼びかけている」という機能でまとめてしまってもよいのだろうか。談話の特徴や、発話者の意図によって、独立用法の対称詞はその談話機能に差異が生じる可能性はないだろうか。

本稿では場面が設定されたロールプレイ会話資料を用いて複数の地点を全国的に調査し、話者同士の立場関係ごとに対称詞の使用傾向を分析することで、話者同士の立場関係が独立用法の対称詞の使用にどう影響するのかを明らかにすることを目的とする。

2. 調査資料

井上文字氏 (国立国語研究所) を代表者とする研究プロジェクトによって収録された「方言ロールプレイ会話データベース」の談話資料を用いる。この談話資料は、談話展開と対人的配慮の表現に関する地域差・世代差を明らかにするために、場面設定の会話と自然談話を、高年層・若年層のそれぞれについて男女別に 2 人一組の会話を収録したものである。本稿では場面設定の会話の中から高年層の「ペア入れ替え式ロールプレイ会話」(以下「ペア会話」) の談話資料 (高年層調査を実施した地域: 秋田・千葉・首都圏・愛知・関西・相生・広島・熊本・人吉・大分・鹿児島)

を使用する。調査地点と話者の情報は表1のとおりである。

表1 分析資料の概要

地点	ペア	記号	出身地	生年	調査日時
秋田	男性ペア	A	秋田県秋田市	1936	2011.11.03.
		B	秋田県秋田市	1936	
	女性ペア	A	秋田県秋田市	1939	
		B	秋田県秋田市	1947	
千葉	男性ペア	A	千葉県木更津市	1956	2017.2.5
		B	千葉県木更津市	1954	
首都圏	男性ペア	A	東京都文京区	1942	2012.02.27.
		B	東京都文京区	1939	
	女性ペア①	A	東京都千代田区	1944	2012.02.06.
		B	東京都千代田区	1953	
	女性ペア②	A	東京都豊島区	1952	2013.03.30.
		B	東京都練馬区	1952	
愛西・津島	男性ペア	A	愛知県愛西市	1945	2015.03.22.
		B	愛知県津島市	1944	
	女性ペア	A	愛知県愛西市	1948	
		B	愛知県愛西市	1948	
南知多	男性ペア	A	愛知県南知多町	1942	2015.03.21.
		B	愛知県南知多町	1942	
	女性ペア	A	愛知県南知多町	1942	
		B	愛知県南知多町	1942	
関西	男性ペア①	A	大阪府富田林市	1953	2016.11.23
		B	大阪府河内長野市	1953	
	男性ペア②	A	大阪府阪南市	1957	2017.12.9
		B	大阪府阪南市	1957	
	女性ペア	A	大阪府岸和田市	1959	2017.12.9
		B	大阪府岸和田市	1959	
相生	男性ペア	A	兵庫県相生市	1951	2013.06.15.
		B	兵庫県相生市	1951	
	女性ペア	A	兵庫県相生市	1933	
		B	兵庫県相生市	1941	
広島	男性ペア	A	広島県広島市	1941	2013.01.26.
		B	広島県三次市	1939	
	女性ペア	A	広島県賀茂郡高屋町	1945	
		B	広島県賀茂郡豊栄町	1943	
熊本	男性ペア	A	熊本県熊本市	1943	2013.01.27.
		B	熊本県熊本市	1943	
	女性ペア	A	熊本県熊本市	1944	
		B	熊本県熊本市	1943	
人吉	男性ペア	A	熊本県人吉市	1948	2012.09.06.
		B	熊本県人吉市	1948	
	女性ペア	A	熊本県人吉市	1943	
		B	熊本県人吉市	1948	
大分	男性ペア	A	大分県由布市	1935	2011.11.06.
		B	大分県由布市	1932	
	女性ペア	A	大分県由布市	1937	
		B	大分県由布市	1939	
鹿児島	男性ペア	A	鹿児島県日置市	1951	2015.09.26.
		B	鹿児島県加世田市	1949	
	女性ペア	A	鹿児島県大島郡天城町	1951	
		B	鹿児島県指宿市	1949	

ペア会話とは、同輩2名がペアとなり電話で会話を行うロールプレイ会話である。場面設定は、場面1「文句を言う」・場面2「頼む」・場面3「慰める」・場面4「誘う」の4つが設定されている。主な設定は表2のとおりである。

表2 ロールプレイ会話の設定

場面	設定
場面1「文句を言う」	待ち合わせ場所に30分遅刻している相手に文句を言う。
場面2「頼む」	会合に出席できなくなったので代わりに出てもらうよう頼む。
場面3「慰める」	怒られて落ち込んでいる人を慰める。
場面4「誘う」	旅行や親睦会などに誘う。

このように、各場面で威圧的な発話や聞き手に配慮した発話が出やすいように設定されている。筆者がこれまで分析してきた自然談話では威圧的な発話はほとんどみられない。ロールプレイ会話を用いることで、自然談話資料ではあまりみられない発話を分析することができる。さらに、話者と設定の条件が統一されていることもメリットである。

なお、筆者は調査員として本プロジェクトに参加しており、データの使用の許可を得ている。地点の表記は基本的に元の資料の表記に従っている。愛知の談話資料は2地点分存在するが、都市部か周辺部かによって用例の出方に差があったのでそれぞれ愛西市・津島市と南知多町に分けた。

3. 分析の枠組み

上記のロールプレイ会話を、ザトラウスキー（1991）を参考に開始部・主要部・終了部に分けた。「開始部」は「もしもし」「Bちゃん」「元気？」など「呼び出しに対する応答」・「参加者の承認」・「挨拶」からなるパート、「終了部」は「じゃあね」「バイバイ」など「終了を示す挨拶」からなるパートであり、主要部は主要な話題、本題からなるパートである。さらに「主に文句を言っている」「主に依頼を断っている」といった話題のまとめりごとに話段で区切った。そして各話段の発話の主導

権をとっている話者に着目し、分割した話段を、話者同士の立場的上下関係によって「話し手上位」「中立」「話し手下位」の三つに分類した。これらをそれぞれ「話し手上位話段」「中立話段」「話し手下位話段」とする。

話し手上位話段は聞き手に対して話し手が立場的に上位に立っている話段である。

(6) A: なにをしちよんよ。

B いや、ほん／＼まー。

A: はよー来なさい。

(相生高年層女性・場面1・話し手上位)

(6) は A が遅刻した B に対して文句を言うという場面である。A と B は本来同等の立場であるが、ここでは B が遅刻というミスを犯したため、一時的に B が A より弱い立場になっている。そのため A は上位者になり、「なにをしちよんよ」という叱責、「はよー来なさい」という命令ができるのである。このように、その場の状況で一時的に話し手が上位者になっている場合は話し手上位話段と認定する。また上司と部下など、本来の話者同士の立場に上下関係がある場合も話し手上位話段と認定する。

話し手下位話段は、聞き手に対して話し手が立場的に下位に立っている話段である。(7) は (6) と同じく A が遅刻した B に早く来るよう文句を言っている場面であるが、言いにくそうにしており、内容を言いさしてはつきりと伝えていない。(7) の A と B は普段は仲がいいが A は B よりも年下であり、その立場関係が「早く来てほしい」という催促をしにくくしたと考えられる。

(7) A: そ、その人がね、

B: うん。

A: どうしても会いたいっていうんで、

B: うん。

A: 早く来てくれるとうれしいんだけどね。

(首都圏男性・場面1・話し手下位)

また、年齢差などが無い場合でも無理な依頼をする場面や聞き手が触れてほしくないであろう話題に触れるときなど、話し手が一時的に弱い立場になるときがある。(8) の場合、A と B に年齢差はないが、A にとって「B が先輩を怒らせたことを

他人から聞いた」という話題は話しづらく、A に対して遠慮がちに話しかけている。このような場合は話し手が一時的に下位者になっていると考える。

(8) B: なんかー、あの一、会長、がら、ちょっと聞いたんだけど一、

A: うん。

B: あの一、怒らせでしまったような話も聞いて、

(秋田高年層男性・場面 3・話し手下位)

中立話段は話し手と聞き手が同等の関係にある話段である。(9) は B が A を旅行に誘っている場面であるが、話し手上位話段にみられるような、「来いよ」「来なさい」などの命令ではない。一方で話し手下位話段のような言いさしもなく、はっきりと勧誘の意思を伝えている。

(9) B: そうよー。うーん。行けば絶対さー、楽しいからさー、

A: / / うーん。

B: うーん、万障繰り合わせて出かけて↑。

(愛西・津島高年層女性・場面 4・中立)

このような基準で話段を区切ったものが表 3 である。表 3 からわかるように、開始部・主要部はほぼ挨拶のみであり、具体的な内容の発話はみられない。この傾向は他の談話も同様である。ここから主に挨拶がみられる開始部・終了部を除き、主要部のみを分析対象として分析した。なお、本稿では主導権をとっていない話者の発話に現れた対称詞は分析対象外とする。

(10) A: ちょっと出れんようになったんや。自治会の一、その、/ / 集まりに。

B: えー、自治会の / / 集まりー↑

A: 今一、うん。

B: えー。

A: / / それで、

B: あ、あんた、/ / ン。

A: 頼む。

(相生女性・場面 2・分析対象外の用例)

表3 ロールプレイ会話にみられる話段

部	話段	立場関係	話者	発話
開始部	-	-	B	はい、もしもし。
	-	-	A	あ、もしもし。
	-	-	B	うん。
	-	-	A	Bちゃん↑。
	-	-	B	うん。
主要部	言い訳	中立	A	Bちゃんさー、集合場所、30分過ぎてただけさー、あんた、なにやってんのー。
			B	ごめん。[笑]いつものことなんだけどー、
			A	うーん。
			B	早くから用意はしてたんだけどー、
			A	うん。
			B	なんかかー、もたもたしてるうちにね、
			A	うん。
			B	1回でたらー、
			A	うん。
			B	携帯を忘れたでしょー。
			A	うーん。
			B	で、また、も、駅ま、から、うちー取りに戻ったのよ、ね。
			A	うん。
			B	で、携帯、うー、今度、なんか、あん、大丈夫かなーと思ったら、今度、Suicaを取りに行ったからね、ここで20分ぐらい遅れちゃったの。ごめんねー。
	了承	中立	A	だって、あんた、みんなもう来てるんだよー。
			B	あら、どうしよう。//だからね、
			A	どうしようじゃなくて、さっさと来なさいよー。
			B	あー、だからね、あの、もう全部整ったからね、今からね、
			A	うん。
			B	急いで、
			A	うん。
			B	あの一、井の頭一の駅から乗るわー。
			A	//うん。
			B	なるべく、えっと、立川だったっけ↑
			A	立川。
			B	うん、だっ//たらー、
			A	うん。
			B	あの一、途中でね、三鷹//あたりで、
			A	うん、うん。
			B	あの一、特快に乗れたら乗る。
			A	もうほんとに早くしないと、あんた、みんなに対して悪いじゃない。
			B	そうねー、よく//言っといー。
			A	もう。
文句	話し手上位	B	//あん、	
		A	いや、わかった。	
		B	うん。//電車中で走るから。	
		A	もう、いいから、どうでもいいけど早く来なさいよねー。	
		B	わかった。	
		A	[笑]//はい。	
		B	ごめんなさーい。	
		A	はい。	
		B	急いで行き//まーす。	
		A	うん、そいじゃあねー。	
終了部	-	-	B	はい。
	-	-	B	はい。
	-	-	A	はい。

(首都圏高年層女性ペア1・場面1「文句を言う」)

また、話者同士の立場関係について滝浦(2008)は、日本語の呼称システムの特徴について「目上の相手に対して代名詞(「あなた・君」)や名前(「太郎」)で呼ぶことはできない」と述べており、目上を呼ぶときに用いられる親族名称や地位・職業名称は「その人に付与された「役割」を呼んでいるのだと考えられる」としている。

そして、「対等か目下の相手なら、その“人”自身を呼んでよい」ため、代名詞や名前を用いることができるという。このように、日本語では話者同士の立場関係によって対称詞を変える。今回の談話はすべて仲のよい同輩同士の会話だが、場面によって一時的に上下関係が生じた結果、差異が生じることはないのだろうか。本稿では話者同士の立場関係に着目し、対称詞の使用に差異がないか分析する。

4. ロールプレイ会話における対称詞の使用状況

ロールプレイ会話にあらわれた対称詞を整理したものが表4である。

表4 ロールプレイ会話にみられる対称詞

地点	ペア	話段数			話し手上位				中立				話し手下位			
		話し手上位	中立	話し手下位	独立用法		非独立用法		独立用法		非独立用法		独立用法		非独立用法	
					非代名詞	代名詞	非代名詞	代名詞	非代名詞	代名詞	非代名詞	代名詞	非代名詞	代名詞	非代名詞	代名詞
秋田	男性	1	12	12	-	-	-	-	-	-	4	-	-	1	3	
	女性	0	13	14	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	2	
千葉	男性	2	25	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	
	女性	5	39	9	-	5	-	3	-	-	4	-	-	-	-	
首都圏	女性1	3	29	10	-	2	1	1	-	-	6	-	-	5	-	
	女性2	0	28	8	-	-	-	-	1	-	4	-	-	4	-	
愛西・津島	男性	8	20	3	-	1	-	6	-	-	1	4	-	-	-	
	女性	0	25	0	-	-	-	-	-	-	4	1	-	-	-	
南知多	男性	0	23	3	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	1	
	女性	0	22	0	-	-	-	-	-	5	-	4	-	-	-	
関西	男性1	3	25	8	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	
	男性2	1	33	8	-	1	-	-	-	8	4	11	-	-	1	
相生	女性	4	32	4	-	-	-	1	1	-	4	2	-	-	2	
	男性	0	9	11	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	
広島	女性	4	21	3	-	-	-	1	-	4	-	1	-	-	-	
	男性	0	25	5	-	-	-	-	-	-	6	2	-	-	-	
熊本	女性	0	47	6	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	
	男性	0	20	3	-	-	-	-	-	-	2	7	-	-	2	
人吉	女性	1	25	1	-	-	-	-	-	-	9	9	-	-	1	
	男性	1	21	1	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	1	
大分	女性	2	19	2	-	-	1	-	-	-	2	6	-	-	-	
	男性	4	56	8	-	9	-	1	-	22	-	21	-	4	-	
鹿児島	女性	0	32	4	-	-	-	-	-	7	1	22	-	3	1	
	男性	0	35	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
	女性	0	22	16	-	-	-	-	-	-	5	1	-	-	4	

表4をみると、中立話段が最も多く、独立用法の対称詞も多く用いられていること、それらの多くは西日本でみられることがわかる。東日本では中立話段で独立用法の対称詞はほとんど使用されておらず、話段数が多いからといって必ずしも独立用法の対称詞も多くなるわけではないことがわかる。また、秋田、千葉、広島、熊本、人吉、鹿児島は独立用法の対称詞が全くみられないこと、首都圏、愛西は話し手上位話段で主に独立用法の用例が使用されていることもわかる。

形式の使い分けに着目すると、首都圏では話し手上位話段で二人称代名詞、中立

話段と話し手下位話段では非代名詞を用いており、形式を使い分けている。一方で、もっとも独立用法の対称詞を多く用いている大分ではどの場面においても二人称代名詞を主に使用しており、非代名詞はほとんど使用していないことがわかる。

以下では、それぞれの話段にみられる独立用法の対称詞の特徴を分析する。また、独立用法の対称詞が見られない地点についても言及する。

4.1 話し手上位話段にみられる独立用法の対称詞

話し手上位話段は主に場面1「文句を言う」でみられた。話者によっては他の場面でも広く話し手上位話段があらわれており、このような話者は男性が多かった。用例としては(4)の他に(11)のような用例がある。

- (11) B: なんのことっておまえ、俺が、こん、お神楽、頼んじよったやねーか。
(大分男性・場面3・話し手上位)

表2の話段数からもわかるように、そもそも話し手上位話段はどのペアも数が少ない。「文句を言う」場面でも、多くのペアは親密さや聞き手への配慮をあらわしている。親しい間柄であっても聞き手を責めることは困難であることがわかる。

3で示した通り、話し手上位話段は話し手が聞き手よりも上位者である。そのため、話し手は聞き手に対する配慮の必要性が低い状態である。また(4)や(11)で使用されている二人称代名詞は、あえて使用することで聞き手を特定・名指しし、「あなたに言っている」ことを強める意図が込められていると考えられ、対称詞としての機能を比較的多く残していると考えられる。

4.2 中立話段にみられる独立用法の対称詞

中立話段は最も話段数が多く、独立用法の対称詞も最も多くあらわれている。しかし、比較的中立話段が多い広島女性は独立用法の対称詞は全くあらわれておらず、長く話したからといってあらわれるわけではないことがわかる。用例が見られるのは南知多・大阪・相生・大分と西日本に偏っていた。南知多は愛知県に属しているが、対称詞の使用に関しては西日本的な特徴がみられる地点であると山本(2017b)では述べられている。

- (12) B: ふんふん。留守番、あんた、頼んで、あの、お父さんに頼んで、行こ行こ。

な。

(相生女性・場面4・中立)

(13) = (1)

B: あの一、大丈夫だわー。また今度会ったときに一、あの一、けろっとした顔で話しようねー。

A: // そうだねー。

B またあんだ、直ってくれるよ。 (南知多女性・場面3・中立)

(14) [同窓会の出欠について]

A: 難しとこやな一。

B: あー// どうよー↑ほやけど、やっぱり会いたいやろ↑

A: あ一。そらま一な一。

B: 長いこと会ーてない子ー//、な一。どんだけお前ー老けてー//、どんなおっさんおばはんになったか//分からへんからさ一。[笑]

A: あ一。お一。ほんまやな一。えー↑

B: 長いこと会ーてない、//うん。

A: 懐かしいけどな、みんな。 (大阪男性2・場面4・中立)

これは山本 (2016) の結果と合致する傾向である。松田・日高 (1996)、松田 (2015) は大分、神部 (2003) は近畿西部とこのような用例の先行研究は西日本に偏っており、中立話段で独立用法の対称詞を使用するのは西日本の特徴といえる。

機能に関しては、(12) は聞き手を勧誘している話段であるため「あんだ一」が「頼んで」にかかっているとも考えられ、比較的対称詞の機能が残っているが、(13) は文中に係り先がなく、フィラー的な機能が強い。このように中立話段にあらわれる独立用法の対称詞は、対称詞の機能が残っている用例とフィラー的な機能が強い用例が混在している。

4.3 話し手下位話段にみられる独立用法の対称詞

話し手下位話段で独立用法の対称詞を用いる地点は今回の調査資料では大分のみであり、大分はほぼすべての場面で独立用法の対称詞を用いることができる地点であるといえる。

(104)

(16) = (5)

A: あの、Bさん、もうなんでもできるけん／／な、

B: {笑}

A: そやけんあんた、Bさんを誘ってきて一って言われちよるに。

(大分女性・場面4・話し手下位)

このような用例はフィラー的な機能を持っており、対称詞としての機能は薄いと思われる。

話し手下位話段が比較的多いのは秋田、千葉、鹿児島等であるが、独立用法の対称詞は用例が見られなかった。自然談話では千葉は話し手上位話段、鹿児島は中立話段において独立用法の対称詞がみられる資料もある⁴⁾。そのような地点でも話し手下位話段では独立用法の対称詞は使用しづらいと考えられる。

4.4 独立用法の対称詞が現れない地点

独立用法の対称詞がまったく現れない地点は6地点（秋田・千葉・広島・熊本・人吉・鹿児島）であった。

特に秋田は自然談話においても対称詞自体がほとんど見られない地点である。山本（2016）や友定（2018）の分析結果をみると談話において対称詞をあまり使用しない傾向は東北全体にいえることであり、東北地方は伝統的に対称詞を多く用いることはないと考えられる。

では、6地点すべてが伝統的に対称詞をあまり用いないかというところではない。鹿児島における対称詞に使用について分析した山本（2019）をみると、1950～1970年代の自然談話資料では鹿児島県内の多くの地点において独立用法の対称詞が確認された。今回用いた鹿児島のデータは2015年に収録されたものであるが、独立用法の対称詞はみられなかった。このように、かつては独立用法の対称詞が用いられていたが現在は使用が減少している地点も多く存在していると考えられる。

一方で2016年に鹿児島県薩摩川内市に属する甕島では、独立用法の対称詞を普段から使用するという調査結果がある（山本2019）。愛知県における対称詞の使用実態を分析した山本（2017b）でも同様であったが、同じ都道府県内であっても都市部か周辺部かによって使用実態の変化に差が生じているようである。

5. 考察

4での分析結果をまとめると表5のようになる。

表5 独立用法の対称詞の出現パターン

立場関係	大分	関西・相生・ 南知多	首都圏・愛西	秋田・千葉・広島・ 熊本・人吉・鹿児島
話し手上位	○	○	○	×
中立	○	○	×	×
話し手下位	○	×	×	×

話し手と聞き手の立場関係については、話し手上位話段は話し手が上、中立話段は同等、話し手下位話段は話し手が下と考えられる。独立用法の対称詞の多くは二人称代名詞であるが、現代日本語では上位者には二人称代名詞が使用できないことは鈴木（1973）や滝浦（2008）、永田（2015）が指摘するとおりである。話し手上位話段では一時的に上下関係が生まれ、話し手が上位者になるので日本語の運用方法に抵触しない。東日本において話し手上位話段で二人称代名詞が使用されることも、二人称代名詞の待遇が低いことに合致している。一方、中立話段で独立用法の対称詞、特に二人称代名詞が使用できるということは、この制限が弱いということになる。実際に山本（2017a、2017b）によると相生や南知多は上位者にも二人称代名詞が使用できる地点である。

二人称代名詞の待遇価値をまとめると、大分・関西・相生・南知多は高く、首都圏・愛西は低いということになる。全く用いない6地点は、秋田・千葉は待遇価値が低いと言えるが、広島・熊本・人吉・鹿児島は他の談話資料では用例が見られるので、二人称代名詞の待遇価値自体は高いのではないかと考えられる。話し手上位話段で用いられる独立用法の対称詞は5地点で用例がみられた。聞き手を命令・叱責している場合が多い話段であるため、フィルター的な機能を持っているものの聞き手と呼ぶという対称詞としての機能が比較的強い。秋田・広島・熊本・人吉・鹿児島は話し手上位話段がほとんどみられなかったため、他資料で分析する必要性が残る。中立話段は最も数が多かったが、ほとんど中立話段であるにもかかわらず用例がみられない地点も存在した。機能としては対称詞としての機能が強く残るものと、

フィルター的な機能を持っているものが混在した。中立話段に独立用法の対称詞があらわれるのは西日本に多く、先行研究の内容と合致した。南知多は話し手上位話段があらわれていないが、中立話段で独立用法の対称詞が使用できるということは同じく対人距離に近い話し手上位話段でも使用できると考えられる。話し手下位話段で独立用法の対称詞を使用したのは大分のみであった。話し手下位話段は聞き手の心情に対する配慮が最も大きいと考えられ、この話段で使用できる大分は対称詞のフィルター化が今回調査した地点では最も進んでいると考えられる。2018年に筆者が実施した大分の言語意識調査においても、独立用法の対称詞を日常的に多用しているとの回答を得た。秋田は比較的話し手下位話段が多い地点であったが、今回の分析資料では独立用法の対称詞はあらわれなかった。秋田は対称詞のフィルター化が比較的進んでいない地点であると考えられる。

このように、独立用法の対称詞の使用には話者同士の立場関係が関連しており、フィルター化が進んでいる地点ほど、これらの制限を受けないことがわかる。それが地域差につながっていると考えられる。

6. まとめ

本稿ではロールプレイ会話を用いて独立用法の対称詞の使用と、話者同士の立場関係との関連性について分析した。ザトラウスキー（1991）を参考に談話を話段で区切り、話し手が聞き手より上位者である「話し手上位話段」、話し手が聞き手より下位者である「話し手下位話段」、話し手と聞き手が同等の立場である「中立話段」の3つに分類して分析したところ、立場関係の違いで独立用法の対称詞の出方に差異が見られた。中立話段が最も多く用例がみられ、話し手上位話段、話し手下位話段の順に続いた。中立話段にみられる用例は先行研究で分析されている用例と同様のものと考えられ、特に西日本においては最も使用されやすいものであると考えられる。話し手上位話段にみられる用例は比較的待遇価値の低い用例で使用されることがある。話し手が上位者になることから、日本語の運用方法に抵触せず、話し手下位話段に比べると使用しやすいと考えられる。話し手下位話段は話し手が下位者になるため、日本語の運用方法に抵触し使用しづらいのであろう。これらの用例の出方は地点によって異なったが、対称詞のフィルター化が進んでいるほどどの話段でも独立用法の対称詞を用いることができ、それが地域差に関連していると考えられた。

注

- 1) 本稿の用例の示し方は元のテキストに沿っているが、下線は筆者が付したものである。記号についてだが、「↑」「↓」は音調の上昇・下降、「／／」は音声の重なりを示している。
- 2) 松田・日高（1996）では「間投詞」としているが、本稿では「フィラー」で統一する。
- 3) 神部（2003）には「間投の「アンタ」」という記述がP318にみられるが、本稿では「フィラー」で統一する。
- 4) 千葉県は国立国語研究所編（2001～2008）『全国方言データベース 日本のふるさとことば集成』、鹿児島県は日本放送協会編（1999）『全国方言資料』等の資料でみられた。

参考文献

- 井上文子編（2014）『方言談話の地域差と世代差に関する研究 成果報告書』、東京：国立国語研究所。
- 神部宏泰（2003）『近畿西部方言の生活語学的研究』、大阪：和泉書院。
- ポリー・ザトラウスキー（1991）「会話分析における「単位」について—話段の提案」『日本語学』10（10）、79-96、明治書院。
- 鈴木孝夫（1973）『ことばと文化』、東京：岩波書店。
- 滝浦真人（2008）『ポライトネス入門』、東京：研究社。
- 友定賢治（2018）「対称詞の間投用法と文末用法の西日本分布について」小林隆編『感性の言語学』163-183、東京：ひつじ書房。
- 永田高志（2015）『対称詞体系の歴史的研究』、大阪：和泉書院。
- 松田正義・日高貢一郎（1996）『大分方言 30 年の変容』、東京：明治書院。
- 松田美香（2015）「大分と首都圏の依頼談話—大分方言の「アンタ」「オマエ」のフィラーの使用について—」『別府大学紀要』56、11-22。
- 山本空（2016）「方言談話における対称詞の使用量の地域差」『国文学』100、482-466、関西大学国文学会。
- 山本空（2017a）「独立用法の二人称代名詞がもつ働きかけの意味の地域差」『社会言語科学会第 39 回大会発表論文集』34-41。
- 山本空（2017b）「愛知県内における二人称代名詞の運用方法」『国文学』101、478-464、関西大学国文学会。

山本空 (2019) 「甌島方言における対称詞について」窪園晴夫・木部暢子・高木千恵編『鹿児島県 甌島方言からみる文法の諸相』205-228、東京：くろしお出版。

参考 URL

「方言ロールプレイ会話データベース」

<http://hougen-db.sakuraweb.com/index.html>

付記

本稿は日本方言研究会第106回研究発表会（於日本大学）での口頭発表「ロールプレイ会話における省略可能な対称詞の使用と対人距離の地域差」を加筆修正したものである。また、本研究はJSPS 科研費 25370539・17K02801（研究代表者：井上文子）の助成を受けている。

（やまもと そら／本学大学院生）